第４３回全国ホタル研究大会報告

研究大会の概要

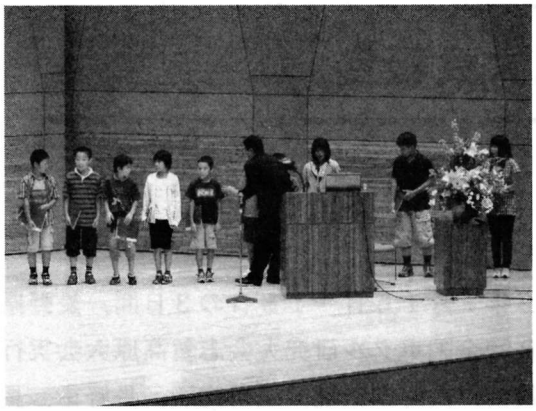
全国ホタル研究会の第４３回大会が平成２２年７月１６日～１８日の３日間，長野県山ノ内町にて、全国ホタル研究会主催、第４３回全国ホタル研究大会志賀高原大会実行委員会主管、環境省，長野県，長野県教育委員会，長野県環境保全研究所，長野市，長野商工会議所，ＮＨＫ長野放送局，ＳＢＣ信越放送，ＮＢＳ長野放送，ＴＳＢテレビ信州，ａｂｎ長野朝日放送，ＦＭ長野，信濃毎日新聞，毎日新聞長野支局，読売新聞長野支局，朝日新聞社長野総局，北信ローカル，北信タイムス，長野市民新聞，志賀高原旅館組合，社団法人長野県環境保全協会，日本昆虫協会長野支部，野尻湖水草復元研究会の後援で盛大に開催され、全国各地から２７２名の参加をいただいきました。

１６日、１２時３０分から志賀高原総合会館９８で受付が始まり、１３時４５分からオリエンテーションが開催されました。実行委員長の三石暉弥氏の挨拶と小林事務局長からの諸連絡の後、バスに分乗し石の湯へ移動し、ホタル生息地を視察しました。９８ホールへ戻ると１６時から信州大学副学長、赤羽貞幸氏による「歴史を秘めた志賀高原の自然とホタル」という題で講演があり、ゲンジボタル生息地である石の湯を含めた志賀高原の成り立ちを中心にお話し下さいました。

講演後各ホテルに別れて夕食を済ませましたが、講演会の途中から降り出した雨がどんどん強くなり、一時は夜のホタル観察会の実施が危ぶまれました。幸い出発の頃には雨もあがり、日本で一番高いところにすむゲンジボタルを堪能することができました。

翌１７日、９８を会場に研究大会が開催されました。９時３０分より水野副会長の開会宣言で開会式が始まりました。中村会長、竹節志賀高原大会会長の挨拶の後、村井県知事（代理越原副知事）、小林県議会議員、山本山ノ内町議会議長の祝辞と続き、来賓が紹介され、開会行事を終了しました。

開会式の後環境省自然環境局の黒田大三郎参与により「生物多様性とＣＯＰ１０」と題して特別講演がありました。１０月に名古屋市でＣＯＰ１０が開催されることから、生物多様性やＣＯＰ１０が取り上げられることが多い年でしたが、生物多様性やＣＯＰ１０を分かりやすくお話し頂きました。特別講演後研究発表に移り、長野市立東条小学校の児童による学校での取り組みの紹介、越川長治氏による河川環境の指標としてケイソウからみたゲンジボタル発生河川の条件、中村祐貴氏による家族で続けられている芋川用水の調査報告が発表されました。ここで昼食をはさみ、午後からは会員による５件



発表を準備する東条小学校の児童

黒田大三郎氏の特別講演

の研究発表があり、水野副会長の閉会宣言で研究発表が終了しました。最後に４３回総会が開催されました（総会報告参照）。

研究大会終了後は、蓮池ロープウェイの２階に会場を移し、交流懇親会が開催されました。中村会長、三石大会実行委員長の挨拶の後、次期開催地である岡山県鏡野町に大会幕の引き継ぎが行われました。大会副会長の佐藤和合会理事長による乾杯の後、子ども神楽やコカリナ演奏、大正琴、らくのう座などのアトラクションを交えつつ会員や地元大会関係者との親睦を深めました。最後に大会副会長の春原志賀高原観光協会会長の音頭による万歳三唱と大会副会長の轟長野ホタルの会顧問による閉会挨拶で終了となりました。

１８日は小布施・善光寺観光や志賀高原トレッキングなどが予定され、希望者が各コースに分かれて参加しました。

会　　場：青長野県山ノ内町　志賀高原総合会館９８

大会日程：

７月１６日（金）

12：00～	受付（９８ホール）
13：45～14：00	オリエンテーション
14：15～15：30	現地見学（石の湯ホタル発生地）
16：00～17：00	講演「歴史を秘めた志賀高原の自然とホタル」（赤羽貞幸：信州大学副学長）
17：00～19：30	夕食
19：30～21：30	ホタル観察（石の湯ホタル発生地）

７月１７日（土）

９：30～10：00	開会式
10：00～11：00	特別講演「生物多様性条約とＣＯＰ１０」（環境省自然環境局参与：黒田大三郎）
11：00～15：00	研究発表
15：30～16：15	第４３回総会
18：00～21：00	交流懇親会（蓮池ロープウェイ２Ｆ）

７月１８日（日）

小布施・善光寺観光

志賀高原トレッキング

研究発表：

①伝統あるホタル活動を通して …… 長野市立東条小学校

②ゲンジボタルが発生する川と発生しない川の一考察 …… 越川 長治

③長野県芋川用水の河川改修とゲンジボタル発光確認数の変化 …… 中村 由克

④長野県辰野町における移入ゲンジボタルについて …… 井口 豊

⑤遺伝子解析による移植されたゲンジボタルの移植もと判別法 …… 草桶 秀夫

⑥中国雲南省のホタルと自然 …… 大場 信義

⑦遺伝子から見た日本と世界のホタルの類縁関係 …… 日和 佳政

⑧オバボタルの配偶行動の一観察例 …… 後藤 好正

（共同発表の場合は発表者のみ）

大会開催地より

第４３回全国ホタル研究会志賀高原大会無事終了のご挨拶とお礼

志賀高原大会実行委員長　三石 暉弥*

第４３回全国ホタル研究会志賀高原大会が、予定通りの日程で無事終了致しました。ありがとうございました。

大会は、志賀高原丸池にあります「志賀高原総合会館９８」（1998年冬季オリンピックの際建設された記念建物）に、全国からホタル愛好者、在野の研究グループ、大学の研究者などをお迎えして盛大に開催されました。詳細につきましては別途あろうかと思いますので、ここでは簡単に全体の流れに触れさせて頂きながら、実行委員長としてのご挨拶とお礼を申し述べさせて頂きます。

１日めは、一昨年春（平成２０年３月）ホタルとしては２８年ぶりに国の天然記念物に指定された石の湯ホタルの現地見学と、石の湯の地勢に詳しい信州大学副学長赤羽貞幸先生の「歴史を秘めた志賀高原の自然とホタル」と言うご講演でした。現地見学は、明るいうちにまずホタル発生域の自然環境を見て頂き、夜は改めて出直し、ホタル飛び交う現状を見て頂くという方式で進めていたのですが、ご承知のように、あの夜は平地長野市内でも各所で災害が発生するというほどの激しい夕立、一時は現地見学断念を決断する寸前まで追い込まれてしまいました。しかし、全く奇跡としか言いようのない天の采配で、そんな暴風雨が見学時間の１時間程の間だけピタリと止んでくれ、参加者全員に１６００ｍの天空に舞う夢のような光の饗宴（ただし、直前の暴風雨のためいつも

の半分位の飛翔量でしたが…）を楽しんで頂くことができました。

２日めは、環境省自然環境局参与黒田大二郎さんの「生物多様性条約とＣＯＰ１０」というご講演を皮切りに、この３月、長年に渡るホタルの保護活動（1978年来長野西高生物班指導）が評価されて、みごとに環境大臣賞を受賞した長野市立東条小学校児童による活動取り組みの様子、続いて、一般会員、研究グループ、大学研究者などによる中身濃い研究成果が次々と発表されて、参加者皆さんのホタルへの関心度を一層高揚させて頂くことができました。また、その夜行われた大会恒例の交流会では、数々の素晴らしいアトラクションと共に、会員同士の話題もこの上なく盛り上がり、参加者全員に澄み渡った高原の夜を心ゆくまで楽しんで頂くことができました。

３日めは高原トレッキング，小布施～善光寺見学，会館周辺の自由散策，自由行動とそれぞれに分散した日程となりましたが、午後３字頃までには全ての担当者より、これといったトラブルもなく、各自それなりに充実した日程を消化して頂けたご様子ですとのお知らせを受けました。４時近く小林事務局長と共に、丸山バス停で「これから横手・白根方面に向かいます」という大会参加者最後の客人をお見送りして、大会３日間の業務を一段落させることができました。そのあと、どちらかともなく歩み寄って堅く交わした握手の温もりは、今なお大会を思い返すたびにあつく甦ってきます。

とにかく大会は無事に終わりました。主催者側の一人としてこれほど嬉しいことはありません。これも一重に、今回の開催地を快くお引き受け下さいました山ノ内町関係者皆さんを始めとしまして、本大会にご協賛下さいました沢山の団体・個人の皆さん、そして、全国ホタル研究会会員の皆さんのお力添えの賜物と、こころより感謝しております。とりわけ、全国ホタル研究会の前会長の古田さん、長崎ホタルの会会長の冨工さんには、いろんな事で公私共に大変お世話になりました。改めてあつくお礼申し上げます。最後にもう一度、関係者の皆さん、温かいご支援とご協力本当にありがとうございました。

＊長野ホタルの会会長

されどホタル!!志賀高原大会に感謝･･･!!

山ノ内町長　竹節 義孝

朝陽に耀かされ、白く雪化粧される志賀高原の山々が美しく眼に映える中、里のりんごも真赤に色付くのどかな晩秋を迎えています。

七月の全国ホタル大会に、志賀高原へ全国各地から“ホタル”を愛する多くの会員の皆様にご参加いただき、皆様方のお陰で成功裡に開催出来、ありがとうございました。

私たちの日常は、忙しく、ハイテクの社会であり、広い宇宙を人工衛星が飛ぶ夢の様

な時代ですが、一方忘れられな人間味あふれる昔懐かしい日本の原風景のシンボルであり、環境のバロメーターが“ホタル”でしょう。夏の夜の暗闇のせせらぎに“ホタル”の放つ、ポォーポォーと優しい光は、私たちの心を癒し、幻想的な世界に導いてくれます。

当町の“志賀高原石ノ湯のゲンジボタル”は、温泉の影響により水温が上昇する為、標高１６００ｍに生息し、成虫期が、６月～８月の３ヶ月余、成虫の寿命が約１９日、成虫の明滅周期など、いずれも“日本一”ということで、平成２０年３月、「国の天然記念物に指定」されました。

指定に、大変ご尽力いただきました「長野ホタルの会」三石会長（実行委員長）から、「指定を機に、長野県下で初めてになる全国大会を志賀高原で受け入れて欲しい」とのご要請をいただき、即座に“ＯＫ”し、全国の仲間の皆様のご理解により、当町志賀高原で開催することになりました。

昨年の青森大会において、志賀高原での開催決定をいただき、歓迎のプレゼンテーションで、咄嗟にオンチな声を張り上げ、ご当地ソング「美わしの志賀高原」（西沢爽作詞・古賀政男作曲）を独唱し、歓迎の気持ちをお伝えし、我ながら正直驚きました。

今年、参加者の方から「あいさつで、歌を唄った方は初めて･･･（笑･･･笑）」なんてヒヤかされながらも、再会を大変嬉しく、感激したものでした。

大会では、全国各地での素晴しい活動事例の発表を受け、まさに２１世紀で、私たちが一番求めている自然の癒しを与えてくれるホタルが、こうした会員の皆様方の地道な育成・環境保全への努力によるものと改めて感謝申しあげます。

志賀高原大会は、全国の仲間の皆さんや地元「長野ホタルの会」の方々のご協力により、多くの教訓や感動を残していただきました事に、心より感謝申しあげます。

志賀高原大会を機に、全国のホタルを愛する仲間の輪やホタルの棲む環境の改善にたずさわる活動が、更に、更に広まることを願いつつ、御礼とさせていただきます。

されどホタル･･･!!　そして感謝!!

第４３回全国ホタル研究大会志賀高原大会事務局報告

志賀高原大会事務局長　小林　功*

１．はじめに

全国の皆様、志賀高原大会にご参加頂きありがとうございました。懇親会で受けた皆様からのメッセージから、ご満足いただけたものと関係者一同安堵しています。大会運営と大会の概要を示し事務局報告とさせていただきます。

２．大会までの委員会活動

志賀高原大会の運営に当たり開催された委員会は、準備委員会５回、実行委員会５回、事務局会議１６回、全国との調整会議１回です。大会完結までに開催された主な会議は以下のとおり。

2008.08.19 第１回準備委員会（長野ホタルの会会員で構成）
2008.12.25 第５回準備委員会（行政を含め実行委員会発足準備）
2009.01.21 第１回実行委員会（組織、大会概要、日程確認）
2009.05.25 第１回事務局会議（実質的な運営が始動）
2009.10.13 全国ホタル研究会との調整会議（現地視察、細部調整・確認）
2010.07.16 志賀高原大会初日
2010.08.10 第16回事務局会議（大会総括、決算準備）
2010.11.16 第５回実行委員会（大会参加者、申し送り、決算報告、解散）

３．大会概要

（１）大会参加者

項　　目	参加人数	備　　考
来賓・招待者	１２※	後援者含む
東条小学校	１５※	先生2、児童10、保護者3
大会参加者	２７１※	
懇親会参加者	２３０	会場：ロープウエイ２F
善光寺・小布施観光参加者	１５	
トレッキング参加者	１０	
司会者	２※	大会参加者と見なす
子ども神楽	１５※	概数
コカリナ演奏	２０※	概数
大正琴	４※	概数
らくのう座	１５※	概数
ボランティアスタッフ	７５※	大会参加者と２７人重複
合計参加人数	４０２	※印合計－重複人数

（２）歳　入

区　分	予 算 額	決 算 額	増　減
補助金	3,000,000	3,000,000	0
助成金	600,000	600,000	0

協賛金	451,000	466,000	15,000
広告収入	280,000	400,000	120,000
雑収入	0	44,211	44,211
合計	4,331,000	4,510,211	179,211

3）歳　出

区　分	予 算 額	決 算 額	増　減
運営費	1,850,000	1,861,960	11,960
大会費	405,000	341,050	▲ 63,950
交流会費	918,000	504,000	▲ 414,000
観光費	100,000	48,925	▲ 51,075
事務費	973,000	764,966	▲ 208,034
予備費	85,000	40,430	▲ 44,570
合計	4,331,000	3,561,331	▲ 769,669

注：大会参加費および宿泊費など参加者負担関係費用を除く。

（4）全国ホタル研究会総会　省略

（5）今後の開催地への申し送り事項

1）志賀高原大会参加者名簿と全国ホタル研究会会員名簿との照合結果と、参加者の意志に相違があり苦慮しました。照合の簡素化または合理化の検討が必要である。

2）大会参加の締め切りは、ある程度余裕を見込むと集計作業が容易になる。

4．おわりに

以上、大会の概要です。今後大会を招致される皆様の参考にしていただければ幸いです。最後に今一度志賀高原大会を支えてくださいました大勢の皆様に感謝し結びとします。

参加者に贈呈した「ホタルなんでも相談室 改訂版」に若干の余りがあります。ご希望の方には1冊300円+送料で販売します。（部数が限られますので、大量購入は希望に添えない場合もあります）

希望者は、長野ホタルの会担当役員、徳竹利一（FAX 026-259-3073）まで必要部数、送付先等の必要事項をご記入の上、お申し込みください。代金は冊子と同封

の請求書にしたがって振り込み願います。　　＊長野ホタルの会事務局長

第４３回全国ホタル研究大会志賀高原大会 回想記

長野ホタルの会　徳武 利一＊

日本一標高の高い所で発生するホタル、日本一・・・、がいくつもある志賀高原石の湯のホタル観賞に、研究発表に、全国ホタル研究会の皆様が遠方から、万障繰り合わせてこの度集まって下さいました。そして多くの方に満足していただき、大きな混乱もなく閉会しました。私としては僅かなお手伝いしか出来ませんでしたので、大会感想を書くようなものを持ち合わせていませんが、スタッフの一人として参加させて頂きましたので、余り触れられない回想をさせて頂こうと思います。

平成５年に当長野ホタルの会が発足して、翌年から全国大会に会長と事務局長が参加、以来毎年参加させて頂く中で、次第に当会にも開催の要望が寄せられるようになって来たとお聞きしています。しかし三石会長は、まだそこまでに至っていないと丁寧にお断りしてまいりました。しかし何時までもお断りしている訳にはいかないことや、一番はこの道一筋にご尽力され、全国的にも名高い会長の御歳の事を心配する多くの会員の声があったり、二年前、当会（殆どは会長と小林事務局長の尽力）の活動により、石の湯のホタルが国の天然記念物に指定されたことも後押しとなり、この度の招致に至りました。しかしいざ開催となると、今まで４２の開催地でも同じだと思いますが、多くのハードルがあった訳です。決定してから当会役員だけでも数十回、開催地の山ノ内町との会議へ会長、事務局長を始め選抜した役員が、往復約６０キロの道のりに、多くの足を運ぶ事になりました。大会前の数々の準備や当日・終了後に、当会を始め、山ノ内町や(財)和合会、志賀高原観光協会、志賀高原旅館組合等々から、多くのスタッフのボランティアがあった訳ですが、会長の、先に紹介した国の天然記念物指定を始め、ここまでに至るご尽力は枚挙に遑がありませんが、お忙しい開会前日にも係わらず、梅雨末期に雨の中を、奥様と二人だけでホタル観賞地や水路のゴミ拾いをされました。そして殊に一貫してチーフをされた小林事務局長は、仕事でも責任ある立場、休日出勤しながら７年も寝たきりのご尊父様を、深夜の介護をしながら奔走されました。当会１６人の役員は慣れない広告取りや、協賛金集めに東奔西走した訳でありますが、各人それぞれ人には分からないご事情を抱えているとは言え、このお二人には適わないのではないでしょうか。頭の下がる思いなのであります。誰もが知らない事だけに、あえて紹介させて頂きました。そしてこの大会が開催される道程の中で、どうしても忘れることが出来ない事は、会活動に一番熱心に活躍され、日本各地の全国大会にも参加され、この大会の開

催に奔走した保坂まゆみさんが、日の目を見ようとする２年前、それまでの無理がたたったのでしょうか、健康を害され急逝された事です。どの位石の湯や奥滋賀高原に通った事でしょう。立派に開催する事が出来ました、安らかにお眠り下さいと、保坂さんと交友のあった全国のお仲間と、本誌をお借りしてご冥福をお祈りする次第です。

会場となった志賀高原石の湯は今、雪が積もり始めている事でしょう。当会の今年最後の石の湯ホタル清掃を兼ねた整備も１０／９終了し、まさに安堵しております。

新刊書の紹介

□ホタルと暮らす ゲンジボタルその不思議な一生　2010年５月発行
三石暉弥 著，信濃毎日新聞社，1,470円（税込）
※長野県のホタルにこだわってきた三石さんの『ゲンジボタル』『ヘイケボタル』『ほーほーホータル来い』に続く著書。「ゲンジボタルの一生」「長野県ホタル図鑑」「ゲンジボタルの飼育の仕方」「ホタルに優しい水路の保全と創出」「長野県のホタル分布」の５章からなる。

□昆虫と自然45巻９号 特集ヒメボタルの多様性と生息地保全　2010年８月発行
ニューサイエンス社，1,800円（税込）
※これまでホタルというとゲンジボタル一辺倒であったが、近年関西地区を中心にヒメボタルの研究や保全活動が盛んになってきている。そうした成果を踏まえてヒメボタルの特集が組まれた。内容はホタル情報館のホタル関連文献目録追加に収録している。